

対応方針回答(提案)シート

「採用する方針」にチェックが入っている項目について、対応可否と対応の考え方を記入してください。別紙で詳細提案を行う場合は、「説明資料番号」に資料番号を記入してください。

検討項目	採用する方針	提案要請事項	対応の可否	基本的な考え方、対応の説明	説明資料番号	関連するJIS項目
0 採用する規格と言語	使用するHTMLのバージョンを明確にする	< 必須 > HTMLのバージョン				5.1.a)
	使用する言語を明確にする	< 必須 > 使用する言語の選択				5.9.a)
1 基本メニューの提供	各ページに、サイト全体で共通の基本メニューを表示する	共通メニューの表示方法とアクセシビリティ				5.3.f)
	各コーナー内のページでは、それぞれのコーナーの内容に合わせたメニューを表示する	コーナー別メニューの表示方法とアクセシビリティ				5.3.h)
	基本メニューを設ける場合、メニューの読み飛ばしリンクなど、視覚障害者に配慮したつくりにする	読み飛ばしの実現方法など、視覚障害者向けの配慮の概要				
2 現在位置情報の提供	「パンくずリスト」を提供する					5.2.g)
	パンくずリスト以外の方法で現在位置が分かるようにする	各ページでの現在位置の示し方の案				
3 レイアウトの方法	テーブルをレイアウトに使用しない(すべてスタイルシートでレイアウトを実現する)	どちらか				5.2.d)
	テーブルレイアウトを使うが、視覚障害者に配慮した作りをする	テーブルレイアウトによる基本的なページレイアウトの案と、読み上げ順序の説明				
4 フレームの利用	フレームを使用しない	どちらか				5.2.f)
	フレームを使用するが、視覚障害者が利用できるよう配慮する	フレームセットでのnoframesの記述事項など、視覚障害者への配慮の概要				
5 タイトル、見出し、段落の指定	各ページが識別できる、明確なページタイトルをつける	< 必須 >				5.2.e)
	見出しや段落をきちんと指定する	< 必須 > 標準的なページレイアウトでの見出し指定の案				5.2.a)
6 ページの配色や色使い	高齢者や色が区別できない利用者でも利用できる配色やコントラストを採用する			具体的な配色の方針案		5.5.c)
	色で情報を表現する場合、色以外の方法でもその情報が伝わるようにする	< 必須 > 説明文や記号での表現など、色以外の表現方法の案または例				5.5.a)
7 文字の見やすさ	文字のサイズは固定せず、利用者が変更できるようにする	< 必須 >				5.6.a)
	標準で表示する文字のサイズやフォントは高齢者が読みやすいものにする			標準文字サイズ、フォントの指定案		5.6.b) 5.6.c)
8 言葉の適切さ・分かりやすさ	標準コードにない「機種依存文字」は使わない	< 必須 > 標準コードにない文字の表現方法				
	一般的でない外来語や専門用語、略語の使用はできるだけ避ける			基本メニューやナビゲーションでの言葉づかいの案		5.9.b)
	やむを得ず難しい表現を使う場合は、説明やよみがなをつける等の配慮をする			よみがな、説明のつけ方の案		5.9.c) 5.9.d)
	音声読み上げソフトでの読み上げに配慮した表現を行う			日付や時刻などの表現で、音声読み上げに配慮した表記の方法		5.9.e)
	単語の途中で空白や改行コードを入れない	< 必須 >				

9	操作部分の分かりやすさ	リンクのついたテキストは、リンクの部分が明確に区別できるようにする	< 必須 >	リンク部分の区別の方法					
		画像やマークにリンクをつける時は、リンクがあることが見て分かるようにする		リンクや操作の示し方					5.3.g)
10	新しいページの表示	新しいウィンドウを開いてページを表示することはしない	どちらか	0					
		新しいウィンドウを開いてもよいが、そのことを必ず表示する							5.3.e)
		自動で新しいページへ移動したり、新しいウィンドウを開いたりしない	< 必須 >						
11	図や記号による表現	画像やプログラムには適切な代替テキストを用意する	< 必須 >	地図など複雑な図の代替情報のつけ方					5.4.a)
		リンク画像には、リンク先の内容が分かる代替テキストを用意する	0						5.4.b)
		形や位置で情報を伝える場合には、目が見えなくても利用できる代替情報を用意する	< 必須 >						5.5.b)
12	PDFの利用	PDFは使用しない	どちらか						
		PDFを使用するが、全盲の利用者の利用に問題が生じないよう配慮する			PDFの読み上げ対応、同内容のテキスト提供など、視覚障害者への配慮の考え方				
13	Flashの利用	Flashは使用しない	どちらか						
		Flashを使用するが、全盲あるいは肢体不自由の利用者の利用に問題が生じないよう配慮する			Flashをどこで使用するか、そこで視覚障害者・肢体不自由者の利用をどのように確保するか				5.1.b)
14	Javascriptの利用	JavaScriptは使用しない	どちらか						
		JavaScriptを使用するが、全盲あるいは肢体不自由の利用者の利用に問題が生じないよう配慮する			Javascriptをどこで使用するか、そこで視覚障害者・肢体不自由者の利用をどのように確保するか				
15	表のつくりの工夫	表組みは使用しない	どちらか						
		表組みは使用するが、視覚障害者が内容を把握できる配慮をする			セル結合の禁止、表の見出しとデータの関係付けなど、表を用いる場合の視覚障害者への配慮の考え方				5.2.c)
16	入力のしやすさ	利用者が情報を入力する機能(入力フォーム、プルダウンメニュー、ラジオボタン、チェックボックス)は設けない							
		利用者に入力操作を求める場合は、視覚障害者や肢体不自由の利用者でも入力しやすいよう配慮する	入力機能ある場合	0	入力の時間制限や分かりやすい入力指示の実現方法				5.3.b) 5.3.c) 5.3.d)
		入力情報の確定前に利用者が確認できるようにする		0					5.3.l)
		入力操作が難しい人のために別の手段を用意する							

17	音による情報提供	音声情報による情報提供は行わない						
		音声情報を使うが、音声聞き取れなくても内容が伝わるようにする	音声情報ある場合	字幕の提供、同内容のテキストでの提供など聴覚障害者への配慮の考え方				5.4.c)
		音声情報を使うが、音声読み上げソフトの利用に支障がないように配慮する		自動再生しないなど、音声読み上げソフトへの配慮の考え方				5.7.a)
		再生や停止などの操作について、視覚障害者や肢体不自由者が操作できるよう配慮する		用意する操作機能とそのアクセシビリティ配慮の考え方				5.7.b)
18	動きのある表現	アニメーションやビデオ、文字スクロールは使用しない						
		アニメーションやビデオを使用するが、代替テキストの提供など視覚障害者・聴覚障害者に配慮する	動画情報ある場合	内容を説明するテキストや字幕提供など、アニメーションやビデオを使用する際の視覚障害者、聴覚障害者への配慮の考え方				5.4.d) 5.8.a)
		アニメーションやビデオを使用するが、再生や停止などの操作について視覚障害者や肢体不自由者が操作できるよう配慮する		用意する操作機能とそのアクセシビリティ配慮の考え方				
19	画面の点滅	早い周期での点滅は行わない	< 必須 >				5.8.b)	